

令和7年度 第14回

# 日南市教育委員会

会議録

令和8年3月23日（月） 午後3時から  
日南市役所・別館2階会議室5

- 1 会議の名称 令和7年度教育委員会 第14回会議（定例）
- 2 会議日時 令和8年3月23日（月）  
午後3時から午後4時45分まで
- 3 出欠確認
  - （1）出席委員 都甲政文、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信、谷口智子
  - （2）事務局 教育部長兼学校教育課長  
生涯学習課長  
学校教育課学校教育担当監  
学校教育課課長補佐兼管理係長  
学校教育課管理係主任主事
- 4 場所 日南市役所・別館2階会議室5
- 5 傍聴者 1名
- 6 開会  
【都甲教育長】  
「それでは、令和7年度第14回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認  
  
【都甲教育長】  
「出席者の確認をいたします。教育委員5名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」  
  
【鬼束部長】  
「事務局は全員出席です。」  
  
【都甲教育長】  
「傍聴者は本日1名見えられております。よろしく申し上げます。」
- 8 活動報告
  - （1）教育長活動報告

## 【都甲教育長】

・2月20日、日南市教育委員会表彰式がありました。来ていただいた委員の皆さんもいらっしゃいましたが、踏切事故の時に頑張ってくれた高校生3名、今年は良い行いをした善行生徒ですね。その表彰として3名を表彰しました。

・2月21日、大窪小学校152年の歴史に幕を閉じました。大体150名ほどの参加ということでした。

・続いて2月の25・26・27日、これは初めての試みだったんですけども、各学校の研究主任と教頭先生に来てもらって、研究発表をそれぞれの学校でもらいました。

とても熱心に1年間の校内研究の成果等を発表してもらって、中身のある発表だったと思っています。

・3月1日、日南高校の卒業式でした。大体120名ぐらいで、卒業式を無事できたようです。

・3月3日、16時半からスポーツ講演会。これは市のスポーツ協会と共催みたいな感じなんですけど、早稲田大学の野球部の元エースピッチャーの方が自分の野球人生を通して今中学校の指導などをされているんですよ。地域移行みたいな形でそういう話をしてもらって、対象は小学校のスポーツ少年団の指導者とか保護者とかだったんですけど、非常に皆さん熱心に聞いてくださって良かったと思います。

・続いて3月5日、これも来ていただいた方もいらっしゃいますけれども、国際塾の閉塾式でした。今年は23名で、無事卒塾しました。

・3月6日、国スポのカウントダウンボード除幕式でした。本庁舎の入口にあるんですけども、振徳高校の女子生徒3名が作ってくれて、その除幕式がありました。

・3月9日、いじめ防止対策委員会。これは4名の方に委員をお願いしたんですが、今回の2回目は吾田中学校の池田先生、生徒指導主事の先生が、吾田中の取り組みを発表してくださいました。非常に委員の皆さん熱心に聞かれて、生徒指導の仕方も以前と変わってきたなということをおっしゃってました。今は叱りつけるのではなく、自分たちで考えさせるような生徒指導をしてるってということで、非常に関心を持たれていました。

・3月16日市内小中学校の卒業式がありました。また感想を聞かせてください。

・続いて同じ日の16時半から南郷小の門分舞子先生という方の表彰を行いました。この方は若手の方なんですけど、文部科学省の優秀教員として表彰を受けましたので、うちに来てもらって、うちの教育委員会のメンバーの前で表彰をさせていただきました。元々東郷の出身の方ですね。

・そして今日3月23日の午前中、昨日ニュースで流れましたが、防犯ブザー贈呈式。榎原小に行ってきました。新1年生全員に防犯ブザーを配るんですけども、その時に理事長さんが「今年で17回目になるが以前は500個配っていて、今年は334個になっています」と。だからそれこそ、今後は何年か経ったら200個ぐらいになっちゃうかなって話で、去年は飢肥小だったんですけど、今年は榎原小で1年生4人しかいないんですよ。4

人が全員参加で、2人がもらって2人でお礼を言うみたいな形で非常に良かったです。緊張しすぎて全員でありがとうございますが言えなかったから、最後にもう一回言わせてくれという場面もあって、かわいかったですね。

## (2) 委員活動報告

### 【別府委員】

まず2月20日に社会福祉協議会の会議の方に出席してきました。

同日午後からは日南市教育委員会の表彰式。先ほど教育長からもありましたように踏切事故の際の交通整理をされたということで、とてもすばらしい行動だなと感じたところです。

2月21日、大窪小学校の閉校式に参加させていただきました。大窪小学校というと、私はやっぱりPTAとの繋がりが印象に残っております。ちょうど今年宮崎の九P大会が行われるんですけど、自分は10年前にその分科会の実行委員長をさせて頂いております、その時に串間市と日南市の小中学校全部で南那珂の分科会を盛り上げようということだったんですが、やっぱりその中でも大窪小学校は断トツ。小規模校でありながら、やっぱりPTA会長をはじめ、その役員さんの繋がりとというか協力体制がすごかったと思いつながりながら参加させていただきました。今回も見てみると、やっぱり地域と保護者と1つのものをみんなで力を合わせて作り上げていくっていうのは、やっぱりその大窪地区ならではの何かそういった文化なんだなと思って、またこういった文化というのは学校がなくなってもまた引き継ぎ育てていただければ嬉しいなと思ったところでした。本当に素晴らしい閉校式に参加させていただきました。

3月5日、小村寿太郎国際塾の閉塾式に参加させていただきました。すごく参加人数が多い中、渦上小学校と桜ヶ丘小学校の生徒さんが1人だけの参加ということで、最初はやっぱりすごく心細かったということだったんですけども、閉塾式が終わって、その中の1人の保護者の方に聞いた時に、やっぱりそのお子様がはじめ2ヶ月間は不安がって行くのを渋っていたということだったんですけども、3ヶ月目以降からは楽しくて、最後は行ってよかったということを知って、子どもの成長を感じました。そんな保護者さんの声を聞いた時に、やっぱりその相馬先生を初め、いろんな先生方のお力添えがあって、みんな成長して閉塾式に向かったんだなというところで、今のこの国際塾っていうのはやっぱりすばらしい活動だなと思ったので、また来年度もどういった生徒さんがいらっしゃるか楽しみで、また開塾式を楽しみにしていこうと思っています。

最後に本日なんですけれども、午前中に日本赤十字宮崎支部の理事会と、あと午後からは日南市の共同募金委員会の運営委員会に参加してきました。

### 【佐藤委員】

私は、国際塾の閉塾式に参加させていただきました。毎回のことながら素晴らしい活動をやり遂げたというふうに、子どもたちの充実した表情が見られてよかったと思いまし

た。その反面、どういう子たちが参加しているのかなっていうところが気になりまして、あまりにも内容が良いので。この参加者決定はやっぱり希望者を募ってという形ですよ。ちょっと子供食堂をやっている関係上考えてしまうのですが、ああいう活動に貧困家庭の子どもたちはなかなか多分手を挙げないと思うんです。この活動にお金はかからないと思うんですが、なんかもうそういうことに消極的なんです。話をすると外国に行ってみたいとか、英語を習いたいとかいう子がいるんだけど、一般的に英語を習おうとするとお金がかかるじゃないですか。だからこそこういうのもあるよって言うんだけど、やっぱりなかなかもう違う世界というか、そういう考えがもうできてしまってるみたいで、だから特別枠じゃないですけど、なんかそういう子たちも本当に話聞いてみると、いろいろ興味もあるし、行ってみたいと。だけど旅行もろくにすることがない。まして東京とか、それから外国にとかいうことも全く自分たちは縁がないと思ってる子もいるので、何かそういう子たちにもぜひこう、チャレンジできるような何か仕組みなり案内の仕方なりあると、またすばらしいなと思ったところでした。

それから3月16日に吾田中の卒業式に行ってきました。50分ぐらい証書授与の時間がありまして、その中ですごいなと思ったのが、足を痛めて松葉杖の子がいたんですが、その子に対しては校長先生が上から降りられて下で渡されたりとか、あと不登校でほとんど学校に行っていない子に対してもやっぱり降りてこられて下で渡されたりとか。そういう配慮をされていて良かったです。ただ放送のハウリングが気になったので、そこがちょっともったいなかったなと。もちろんリハーサルでも十分チェックされているとは思いますが、昔だったら結構そういうものに詳しい先生とかがいらっしゃってすぐに対応されていたんですけど、直接教育力には直結しないんですが、そういうところがうまく伝わっていないのかなと思いました。

### 【谷口委員】

私は2月20日に教育委員会の表彰式に参加いたしました。生徒さんが女の子3人で親御さんもいらっしゃっていて、もう親としてはやっぱりすごく嬉しいだろうなと思いました。やっぱり3人いても10人いてもやらない子は絶対やらないだろうなと思うので、3人の勇気はすごいなと思いました。表彰を受けた生徒さんの1人が「学校の先生や保護者の方のおかげでいただいたもの」とお話ししている姿を見て、親としてはもうたまらないだろうなと思ったところでした。

3月5日の小村寿太郎国際塾の閉塾式は、また来年も絶対参加するって決めている5年生いるだろうなと思うぐらいの仕上がりで、自信を持って話していた子が多かったように思いました。将来は英語の先生になりたいって言う子たちもその中にいて、やっぱりずっとなくならないで欲しいなと思ったところでした。

3月16日は細田中学校の卒業式で、告示を読みました。ものすごく緊張して大丈夫かなとずっと言ってたんですけど、先生方からも大丈夫よって言ってもらえて。隣に校長先生がいらっしゃるのを横目でちらちら見ながら、立つんだなとか思いつつ、もうとて

も緊張しました。細田中学校は2人の卒業生だったんですけど、歌も2人で涙ながらに歌ってるのを見て保護者目線にもなってしまって、もう私が泣きそうになってしまいました。もうその2人の卒業生が在校生からすごく慕われているのがわかって、その在校生が送辞を読むんですけどみんな涙涙で、すごく暖かい卒業式でした。

### 【八木委員】

2月20日、私も教育委員会表彰式の方に参加しました。高校生3人で1時間交通整理したということすごいですね。なんかやっぱり善行賞をもらうということで、すごく晴れやかな顔されていてとてもよかったなと思いました。

翌日21日は、大窪小学校の閉校式に参加させていただきました。本当に閉校で学校がなくなって地域の方も寂しいと思うんですけど、校長の式辞の中で、過去に教員の時に閉校した学校のことを調べる研究授業をされたみたいで、その時の話をされていました。学校がなくなっても、やっぱり地域もそういう学校があったってことをみんな忘れないで未来までこれからも続いていくんだよってという式辞がとっても心に残りました。大窪小学校もこれから寂しくはなりますけれども、皆さんでその地域力っていうのをまた守っていくんじゃないかなと思いました。

あと3月5日の小村寿太郎国際塾の閉校式は、最後の英語劇が初めての取り組みだったので良かったです。皆さんやっぱり英語をしゃべる自信もついたのでしょし、本当に良い1年を過ごされたんじゃないかなと思います。さっき佐藤委員が言われましたけど、たくさんの子供たちが参加できると良いなと思いました。

そして16日は、油津中学校の卒業式に行きました。35人の卒業生が保護者や地域の人に見守られていて、子どもたちも本当に立派な態度でした。式典での礼がすごくスムーズで、今までで見た中で一番素晴らしかったです。一度に3人ぐらいが同じタイミングで礼をするみたいな形で。無駄のない動きですごいなあと思いました。

### 【都甲教育長】

やっぱりそれが練習の成果ですよ。そして先ほど話にあがった国際塾、今年はお礼の言葉を東郷小学校の子が言ってくれたんですが、しっかりしてまして、国際的な保健師になりたいと言っていました。ちょうど保護者席のセンターにご両親が座っていて、後で褒めに行ったんですけど、やっぱああいう子が座って欲しいですね。国際塾はあと数年で30年目になるので、その時にOBとかを集められないかなあと思ったりもしています。同窓会みたいなものができないかなあと思ったりしてね。

私は卒業式、鶯戸に行ったんですけど、中学生3人小学生4人でやったんですよ。在校生が送辞を読んだんですけどやっぱり3人なので、個人個人に言うわけですよ。言葉もたまらないですね。思い出を「〇〇さんあなたはこうだったから」とか、やっぱあれが小規模校の良いところで、非常に中身の濃い卒業式だったなあと思っています。また今後の小学校も楽しみです。

【佐藤委員】

小学校の記念品は何になるのでしょうか。

【都甲教育長】

小学校はなくて、中3だけです。そして小1入学がお祝いの記念品になります。中3の記念品は去年と一緒に防災グッズになっています。ずっと印鑑だったんですけど、変えさせてもらいました。

9 前回の議事録承認

第12回の議事録については、令和8年度第1回定例会において、本議事録とともに諮る。

10 報告について

報告1 令和8年度教育基本方針について

(赤池担当監)	令和8年度日南市教育基本方針について説明。
(別府委員)	先生たちの授業力の向上というところで、研究をすべての先生にしているのが、すごく素晴らしいなと思ったところがございます。日南市の子どもたちの学力が低いというのは、先生のかっているものもあるんだろうけれど、やっぱり市内の子供って学習塾に行ってる子が多かったりとかいうのもあったりとかで、先生が幾ら授業力があっても子どもたちにやる気がなかったら、良い先生が来ても難しいんだろうなと思うので、できればその授業力と同時に子どもたちが勉強するメリットとか、その重要性っていうのを何か引き出せるような、そういったスイッチを押せるような先生がまた増えていただければいいなと思いました。吾田中などがその研究の予算が、研究の重点校みたいな、これは何か予算みたいなのはつくんですかね。
(赤池担当監)	予算はつかないんです。支援がつくという話で。先進校にどうしても授業を見に行きたいとかいうような場合については、場合によっては予算措置を県教委の方が出してくれるということでしたので。
(別府委員)	ありがとうございます。あと1つ最後に、鶴戸小中学校のお金の

授業は30万つくということなんですけど、これはどういった授業をするかっていうのは、鶴戸小中学校の先生が考えてくださいねというような形でしょうか。

(赤池担当監)

はい、そのような形になります。

(別府委員)

分かりました。ありがとうございます。

(八木委員)

私も2つ質問させていただきます。グローバル人材支援事業についてですけど、この宮崎公立大学との連携ということで、これは公立大学に行くまでの交通費とかはどうなるのでしょうか。

(赤池担当監)

全部市のバスで行きます。

(八木委員)

わかりました。もう1つですけど授業力向上について、複線型授業っていうのはいろんなネットやパソコンを使ってもいいみたいな授業ですよ。よく保護者から聞くのが、やっぱり授業の雰囲気、昔と全然違うじゃないですか。なんかいつ行ってもざわざわあち行ったりこち行ったりしてて、あれ何なんだろうねっていうような感じで。保護者が今の授業の在り方を理解してないのかなと思うんですけど、その保護者への説明とかはどうなっているのかお聞かせ願えたらと思います。なんかざわざわしてるね、みたいな感じで保護者が思っただらっしゃるといふのをよく耳にするので。

(赤池担当監)

ありがとうございます。実際その通りで、昔の座学と言われる、先生が一方的に講義をして子どもたちは聞く、というそれがいいって思われている方が多いかと思えます。教員の中にもそういう方もいらっしゃるんですが、今私たちの生活の場を見ても、やはりいろいろな会議をしたりとか、タブレットでとかいうようなことを考えると、これから生きていく子どもたちは、ただ先生の言うことはいはいて聞いてから書いてという勉強じゃもうついていけなくて、実際それについて行けなくなっている子どもたちもいると。社会人になってなかなか厳しい子どもたちもいるということをお聞かせしております。ですからそういったことについては、ぜひ各学校でPTA総会であるとか、或いは学級懇談であるとか、そういった場で、今の学校は学びのスタイルが変わっているんだということについて、ぜひ保護者の方に周知をしてもらいたいというように考えております。これはもう教育委員会発信で各校長の方に、そういったことをぜひやってくださいということをお願いをしたいなと思っております。

(佐藤委員)

今の話に関連して私も全くそうだなと思うんですが、例えばこのICT活用推進にしても、早く慣れていけばいいのかっていうと、私は

そうじゃないと思うんですよね。ちょっと例えは悪いですけど、お酒とかと一緒にちゃんと体ができ上がってちゃんと判断力もある、そういう状況では人生が豊かになります、じゃあそれを小学生中学生から飲ませてしまうとどうなのかと。私はやっぱりそれと一緒にだと思うんですよね。だから将来絶対使う。それはそうなんだけど、特に生成 AI とかはちゃんとした指令が出せるかどうにかかっている、それが出せるかという、しっかりした生活体験とか、幼少期のころの生活が基盤になるので、それが奪われるような生活環境では生きないと思うんですよね。だからその辺を保護者にきちんと、家庭で学ぶべきことと学校が目指してるものと、あとその年齢の時に考えなくちゃいけないこととかを整理して、それが何かを伝えていかないと。学校はどんどん使ってるからといっても、本当に0歳1歳から見てる子もいるしハードルがすごく下がっていて、それでは生成 AI を使いこなせるような人材は育たないだろうと私は思うんですよね。だからやっぱりきちんと保護者に繰り返し繰り返し、一緒に考えましょうよということを伝えて、家庭や保護者の中でも ICT で良いのかを考えて。諸外国ではまた鉛筆に戻ってるじゃないかっていう方もいらっしゃるし、そこら辺がやっぱりきちんと理解されないとうまくいかないんじゃないかなというのをちょっと思ったところでした。そしてこの授業とかは私たちが見ることはできるんでしょうか。

(赤池担当監)

ご希望の方は言ういただければいつでも。もちろん学校側が良いと言えばですけど。ぜひ見ていきたいと思います。

先ほど佐藤委員が言われた通り、基本的には小学校の低学年にタブレットで生成 AI 使ってとかいうことは一切考えておりません。基本的にこの事業自体が、生成 AI で先生たちの校務を減らして子どもたちに使う時間を増やして欲しいという思い、そして子どもたちがもし使う場合については制約がかかっている、例えば中学校1年生以上じゃないと使えないとか。この生成 AI じゃないと使えないとか。そして保護者の同意が必要というようにいくつかの段階がありますので、ただそれを実際に学校現場が知らないってところがあるので、いろんなものを検索して、生成 AI が出したものを子どもたちがそのまま答えとしてそれを先生に提出するというのが今まかり通っているので、そのあたりについてはちょっと規制をかけていかないと考えております。さっき佐藤委員が言われたような形で、全く考えない子どもたちが出てくるのかなということを懸念し

ています。そういったところをちょっと考えながら進めていきたいなというふうに思っております。

(佐藤委員)

あとひとつ、授業力っていうところに視点を向けられたっていうのは、素晴らしいなとは思いました。学力向上の課題ですよ。なかなか学力が上がらない理由を探せばいっぱいあると思うんですけど、やっぱり学校は授業ですもんね。

(赤池担当監)

別府委員が言われたように、確かにいろんな要素があって学力が上がらないっていうのはもちろんなんですけど、例えば県立高校の倍率が高かったらもっと勉強しなきゃいけないと思うんですけど、実際県立の倍率も非常に厳しい状況にありますので、「勉強せんでも通るよ」って言われたらもうそれまでなんですよね。だからといって、それを先生たちに言ってしまうと、塾がない地域等もある中で、やっぱり授業力が高い、成績が良いというような、そこを先生たちの授業に求めていかないと「先生、帰って勉強しないんですよ」って言われたら、じゃあその授業が面白くないから帰って復習しようという気持ちにならないんじゃないかっていうような理論構築をしていかないと、授業も変わらないので。

(佐藤委員)

やっぱり学ぶ喜びっていうのは絶対あると思うんですよ。ちっちゃい子はもう勝手に学んでいきますんで。だから元々は主体的な存在だと思うので、本当に授業が充実すれば学力が上がる。すぐには学力が上がらないかもしれないけど、授業が面白いなって、学ぶことは楽しいなって。それは必ず繋がっていくと思うんです。

(都甲教育長)

今朝のNHKでNISA 貧乏っていうものが出てきたんですよ。まさしく金融教育なんですけど、20代30代は結構NISAをしているみたいで、稼ぎの6割7割をつぎ込んでるんです。というのも、自分たちの老後が不安でたまらないわけですよ。年金だけじゃ生きていけないだろうと。ですから今回こうやって鶴戸小中学校に指定を受けてもらいますけど、やっぱりこういうのを全体に広げていく必要があるのかなと。これが入口だからですよ。またそれを今度は高校とか大学に行って勉強して、今後の将来に向けてのお金の面というのはやっぱり今後勉強が必要じゃないかなと思います。本当にびっくりしました。取材を見てですね。してないと怖いんだけど、やっただけでその学生はスマホばかり見ているんですよ。上がり下がり。たまらないって言ってましたね。ですからこういう金融政策も大事だ、勉強も大事だと。

それから本当に授業力をつけなきゃいけないと思うのは、もう

すごいんですよ吸収力が。私がいつも思ってるのは、日南の子は素直なので、もういろいろなことを吸収できるんですけど、じゃあ誰が水を注いで栄養を注いでってするのかということ、それは先生なので。先ほども出たように、保護者の理解ってやっぱり大事だと思うんです。八木委員が言われたように、授業が変わってるから、それもやっぱり分かってもらわないと。だから帰ってから、親御さんが学校の様子を聞く言葉がですよ。例えば今までだったら「先生の話ちゃんと聞いていたと」とかであったのが、そうじゃなくて「授業の時友達と意見をいろいろ話したと」とかね。そういう問いかけが出てくる感じにならないといけないのかなと。そのためにはやっぱり学級懇談とかでしっかり話をしていく必要があるのかなと。良い機会だから、市PTAの役員さんとの会なんかでも行って今の説明するとか、そういったことが大事だと思います。学校と保護者が一緒に子供たちを育てていくっていうのが大事なので、またその時はお願いします。

## 1 1 議事について

### 議事 1 次年度の教育委員会活動計画（案）について

(武田主任主事)  
(都甲教育長)

次年度の教育委員会活動計画（案）について説明。  
前回は見てもらったわけですけど、8年度は山鹿市に行くので、翌年は県内のどこかに行く予定ということで考えておいてください。また途中でふれあいコミュニケーションとか他課との意見交換会については希望をとらせていただいて。今度のふれあいコミュニケーションではどこと話をしようかなとかね。もう管理職とも話しましたし、今度は思いっきり若手でいいんだとかですね。いろいろ聞きたいところがあったら、また言ってください。よろしくお願いします。

### 議事 2 第三次日南市子ども読書活動推進計画について

(重永課長)

第三次日南市子ども読書活動推進計画について説明。

(八木委員)

先日パブコメがありましたよね。私がちょっと出遅れて、見た時にはもう終わっていたんですけれども、学校司書の先生にあるよねって言ったら存在を知らなかったんですよ。やっぱり子供図書の要となるのは学校図書館だと思うんですね。だからそこが繋がっていないと、本当の推進というものができないと思うんですね。やっぱり本とかは市立図書館から来るけど、学校図書館との繋がりであったり、いろいろな話をもっとできる場が欲しいって言われていたので、ちょっとそこら辺をパブコメで言いたかったという話があったので、ちょっと今回それをこのパブコメについても、学校図書館の司書の方が知らなかったというのはとても残念だと思いました。25年くらい前に私すごく一生懸命図書ボランティアをやったんですけど、その頃小学6年生はハリーポッター時代ですよ。ダレン・シヤンとか。そういう本を皆競い合って読んでいました。

その時はやっぱりボランティアも多かったし、読み聞かせボランティアの講座も多かったですね。県主催のものとか、学校からもチラシが来たり、司書も今より数も多かったり、どうやったら図書館が子どもたちの使いやすい場所になるか、みたいな内容とかですね。すごく保護者も勉強していました。そんな中で、本の蔵書数はあるんですけど、例えば『お母さん』っていう何十年も前の文集が30冊あって、それも廃棄できないし蔵書数に入っていたという時代で、その時は子どもが読みたいと思う本がほとんどなかったんですね。今はちょっと携わってないので分からないんですけど、やっぱり子どもたちが読みたい本が分かるためには、やっぱり市立図書館と繋がっていないといけないと思うんですね。

校区外には子どもたちは行けないので、吾田の子は図書館には行けない。だからさっき言ったような、吾田に図書館が欲しいという要望はもう25年前から言っていました。じゃないと図書館が近い子どもたちは良いですけど、そうでなければやっぱり自分たちでは行けないので、そういう意味ではやっぱり学校図書館が子どもの読書推進の要でないといけないのかなあと思います。

私は幼稚園で読み聞かせとかしているんですけど、月曜から金曜まで毎日30分。もう子供たちは毎回食い入るように見えていますね。本当に子ども、小さい子って好きだと思うんです。だからそれをうまく繋げていけるような推進ができるといいのかなあと思います。

(重永課長)

協議会には学校の図書司書さんにも入っていただいております。その中でやっぱりそういう、もう少し交流をしていく必要があ

るという話が出ております。その中で別の委員さん、学校の図書司書さんではないんですけども、先ほどありました学校での読書時間が前はもうちょっとあったよねっていう話が出た時に、図書司書さんが「確かに昔はあったけど、読書時間が少なくなったような気がします。市内全体の話をしているわけじゃないんですが」っていうような話がありました。確かにうちの図書司書、移動図書館の運転士さんを含めて16名。外部委託で包括で来ていただけてますけど、図書司書さんたちもいろんな思いを持ってらっしゃって、もっと団体貸し出しとか利用していただけると、私たちも選書しがいがあるとか、話していたので、こちら辺もうちょっと僕らも学校現場にアピールが足りてなかったんだらうなっていうのを、図書館係とですね、話していたとこで、やっぱりこの辺はちょっと今後のポイントというか、慎重に対応したいと思います。

(都甲教育長)

学校図書司書さんは5人ぐらいしかいらっしゃらないですよ。4校ぐらい兼務されている。だから、週に1回ぐらいですね。

(重永課長)

そういったこともあって、なかなか思いが行き届かないっていうようなことを言われてました。貴重なご意見ありがとうございます。

(八木委員)

ブック屋日南っていう言葉が生まれたときは読者ですけど、時代とともに減ってるんですよ。あと、県立図書館のバックライブラリーとかも借りに行ったりとか、すごい盛んな時代だったのかなと思います。返すのが大変でしたが私も行ってましたけど、そういうところの情報ですよ。県を通して借りれるので。

(重永課長)

学校現場もいろいろカリキュラムの中でやられてると思いますので、なかなか時間を確保するのが難しいのかなとは思いますが、そういった意見が出ましたということで今後活かします。

(都甲教育長)

他はいかがですか。

(別府委員)

私子どもが3人いまして、来年成人するんですけど自分の子育ての一番の失敗が、本を読ませる習慣を身につけさせなかったことだなと思って本屋さんなのに。

なぜかという読む習慣がついてなかったんですよ私自身が。

そんな中、ちょっと大人になってちょっと悩んだときにある1冊の本と出会って、それで考え方や自分のあり方っていうのが変わって、本ってすごいんだなっていうことに気づきだして本についていろいろ調べていたところやっぱりその、いろんな成功者って間違いなく読書家であるだったりとか、年収と読書量って比例してるとかって子どもたちに至っては、学力の高い子は本を読んでるっていう

ことがあって、ある高校の先生と話したときに数学の問題、本を読んでもない子は読解力がないから何をしてるのかがわからず、本を読んでも子じゃないと、数学すらも解けないっていう話を聞いて、なのでさっきの学力向上っていうのは、この読書推進が1つの鍵なんじゃないかなと思っているんですよね。

そういった内容は自分もやっとなんで気づいたので、できればその、第一子のお父さんお母さんだったりとか未就学児のお父さんお母さんに読書のメリットだったりとか、子どもの人生よりよくするのは読書をすること、読み聞かせて大事なんだよっていうことを気づかせてもらって、本好きに導いていくその仕組みづくりっていうのを、やっぱしていかなきゃいけないんじゃないかなと思ったところでした。

どこかの図書館では、先ほどの何の本を読んでもいいかわからないっていうところで、その事務の思いだったりとか、今の気持ちを打ち込んでAIに選書してもらおうという運用を取り入れてるところもあるらしくて、そういったのをなんか遊びながらできるといいのかなと思っているところです。

是非ですね、これを図書館協議会に、前もちょっとお話しさせてもらったんですが、やっぱり幼稚園の先生だったりとか、幼稚園のPTA会長さんだったりに、実際うちからの働きかけっていうのも必要だと思うんで入れていただきたいというのが僕の希望でございます。以上です。

(重永課長)

図書館協議会のメンバーの話はですね、一応検討をいろいろしているところでございます。

幼稚園教諭や保育士さんとか、立場が微妙に学校教諭さんと違っているという話を聞いたときに、ちょっと目線が違うよっていう話を聞いてですね、学校の先生というところが違うので、何が違うのか僕らはすぐわからなかったのですが、それでもいいじゃないっていう話をしたところだったんですよ。

結局、やっぱり単純にその幼稚園だったり保育園の現場であったりっていう先生の子どもの本に対する思いとかっていうのが聞けるだけでも違うのではないかと話しはしたところなので、図書館協議会定員何名以内っていう人数の全員制限があるんですけども、確かに1名空いてるですよ。

そこに加入してもらうことはできないかなという話もしてたところでした。

<p>(別府委員) (都甲教育長) (佐藤委員) (都甲教育長)</p>	<p>ありがとうございます。 はいどうぞ。 朝読は今もありますか。 朝読はもうないですよ。</p>
<p>(八木委員) (都甲教育長)</p>	<p>いつの間になくなっていて、結局職員朝礼がなくなって、その職員朝礼の時間にされていたから、今は週に1日とか言う時代なので、朝8時からそのまま朝の会をやったりとか、放課後の時間を生み出すようになっています。 私は読む本がないと困るから、必ず借りてましたよね。 見ていていい光景でした。先生も前で読んで、子供たちがみんな読んでるの。それがなくなってしまいました。 それに代わって中学校でも読み聞かせを何とかやってる学校が何校かありますね。中学生も読み聞かせを読んでもらうと食いつくように聞くみたいです。それが自分で読むのはなかなか今やれないですね、本当残念なんですけど。</p>
<p>(佐藤委員)</p>	<p>学力とまたくっつけすぎののもどうかなあと思うんですよね。幼稚園ではそんな学力は考えないですもんね。やっぱり心の栄養というか好きなものを読むっていう、結果として学力上がるかもしれないけど。 だからこのアンケート見てもですね、未就学児の親ってすごく本に親しんでますよね。それが小学校、中学校ってなると難しいというところですね。</p>
<p>(都甲教育長)</p>	<p>未就学児の親御さんは純粋ですよ。答えている量も、後ろに文章もあるんですけど、アンケートをとっても純粋な気持ちで本に対して気持ちを持っている。 だから、親御さんたちも同じようにその気持ちを持ち続けてもらえばいいんですけど、小学生中学生になると例えば勉強したりとか少年団活動とか、子供たちが忙しくなって、とてもそういう中で子供たちに本読みなさいって言えないというのもあったんですよ。</p>
<p>(佐藤委員)</p>	<p>スマホを見る時間を削らないといけなくて、その時間ですね。</p>
<p>(八木委員)</p>	<p>習慣ですね、毎日は無理でも1週間の中に、ちょっとだけでもスマホは置いてみてほしいです。</p>
<p>(都甲教育長)</p>	<p>学校でも持ってるスマホで読むこともできますけど、本当おっしゃるように、小学校時代とかは例えば親御さんたちも相手にしてもらって、居間でみんなで本を読もうとか、それを1週間のうち一晩でもやれば大分違うんですけどね。なかなかそういうのも難しいし、私が北郷中の教頭るときにはPTAに学習指導部があって、読書させよう・子ども</p>

もたちに本を読ませようって言って、活動としてやってみました。

今もそういう活動をやってる PTA もあると思うんですけどね。

(佐藤委員)

やっぱり時間はかかるんですよ。本では答えがすぐ見つからない感じがあるけど、それがやっぱり読書の1つのいいところでもあるから、スマホみたいにパッパと答えが出ることばかり求めるような、大人だと読まないでしょうね。

(谷口委員)

今の小学生は、図書室は雨の日に行く場所っていうんですよ。先生によっては、1週間に1回か2回は本を借りていいっていう先生もいらっしゃるし、先生によっては基本的にはお外で遊びなさい、雨の日には図書室に行ってくださいっていう先生とちょっと分かれているような気がします。

それを小学生で読む子っていうのは、国語よりも算数の文章問題の方が好きなようなイメージがあって、いろいろ見ていると本好きな子っていうのはじっくり字を見たり、私は仕事上、楽譜をちょっと使ってますけど、楽譜を見たりするのがすごく好きな子が本と一緒に読んでいるので、やっぱり読むことに対してすごい抵抗がなく、そういう子たちは何か決めつけちゃいけないかもしれないけど、スマホとかあんまり興味ないんですよ。目が痛いって言うんですよ。

活字の方がいいっていうので、図書館にはうちの子たちも結構図書館が好きで行ってるんですけど、中学生にとっての図書館は中間テストや期末テストの勉強をする場所っていう感じです。本を読まないのって聞いたら、問題とかがわかんなかったりしたとき、理科とか社会とか歴史とかの本を見るみたいな、例えば江戸時代のなにかの本を図書室で見るみたいな感じになっちゃう。

調べるという感じで、読むというのを中学生から聞かない。

図書室について、小学生は先生から行っちゃいけないって言われたっていう子もいるんですよ。

雨の日じゃないと行けないって言って、かわいそうと思いながら行っていいんだよ、行きたいって先生に相談してごらんって促してみると先生と一緒にいく子がいる。

読書が好きな子たちに何でそんな本知ってるのって聞いたら、担任の先生がとても本に詳しくて、こういう本が読みたいって相談したときに、伝記の本を紹介してくれたり、お友達とうまくいかないなんて言ってるときに、この本読んでご覧って先生が教えてくれて詳しいよって、先生が詳しいから本を貸してくれるって自腹で買ってる先生もいらっしゃるみたいで、だからそういうきっかけで本が好きで図書室

に行けばもっといっぱいあるし、図書館に行けばもっとあるし、自分に合った本は先生に聞けば出てくると思ってる子もいる。

(都甲教育長)

すごいです、先生がとても読んでる。

図書館や学校図書室とかで買う本は変わってきてると思うんです。

調べ物なんかで図書館に行ったんですけど、今タブレットにQRコードの読み取りがついてて、そういうので見えるような時代になってしまったので、図書館にどういう本を置くかといったら、何か叙情的なものとかね。

やっぱり違った方を選ぶ必要があるのかなって、やっぱり分けていかないと、だって調べものしようって言うてるんですよ。

タブレットで調べたら、資料とか新しいことが書いてあるとかね。

もう古い情報になってるとか。でも本の方が迫力があったりですね、やっぱり違うから、学校に図書予算を分配しますが、選び方がね、難しい時代になってると思います。

(佐藤委員)

調べ物は図書館じゃなくてタブレットで、心を耕すような場所が図書館、そのほうがいいかもしれませんね。

(都甲教育長)

そういう形で、谷口委員が言われたように詳しい先生たちが進める。

(谷口委員)

先生が詳しいと、親は読まなくても先生に聞けば何とかなると理解している小学生もいます。

先生にこんな本を読みたいって言うて出てくるので。

(都甲教育長)

すごいですね、目の前に優秀な秘書さんがいるようじゃないですか。

(谷口委員)

そうなんです。だからそういう子は読書感想文を書くのも全く抵抗はないんですよ。

(八木委員)

そういうことを各先生がいろいろ教えてくれるから、私たちも先生が欲しい本を調べるアクションがあるといいのでは。

担任の先生が図書館に行って、先生からこの本を集めてくださいと頼まれて、用意した本を市立図書館から借りて授業で活用するのが一番だと思うんですよ。それはもう、すばらしかったですよ。

図書館ボランティアで行ったら、先生たちが何人も来るんですよ。

これ、次の授業のために宮沢賢治の本を集めてくださいとかですね、そんな感じで。ただ、その欠点はみんなが同じ時期に同じ本があるので、重なるとずらさないといけないっていう話がありました。今もそうなのかもしれません。

国語の教科書って参考図書がいっぱい出てますよね、せめてあれがあればいいんですけど、予算的に無理かもしれないですね。

- (都甲教育長)　　そして、要はこれを誰に配って誰に実践してもらうのかですね。
- せっかくこういう、いいものができたので、果たしてこれは学校の先生がね、こういう存在をしっかりとわかってきてるのかとかね。
- (谷口委員)　　図書司書はいらっしゃいますよね。
- (都甲教育長)　　いらっしゃいます。だから多分、そういうところまで配ってくれると思うんですけど、やっぱりこれを使ってもらいたいです。幼稚園の先生たちにも、このアンケートの結果だけでも見て欲しいですよ。非常に前向きな保護者の方がいらっしゃるの。
- (佐藤委員)　　保護者の方がおっしゃられた悩みがですね、最近読み聞かせができてなくて忙しくて、私だめな親なんですみたいな人がいらっしゃるんですね。だけど、できる時だけでいいですよ。
- (谷口委員)　　なんかもう、子どもが幼稚園とか保育園の時に私は相談したことがあって、子どもが本とかすぐかじるし破っちゃうから、あんまり本を渡したくないなと思ってしまうところがあって、そしたら保育園の先生が、まず本というものがあることとか、遊んでもかかじっても破っても平気だってことや、読んであげるといよりも、さわらせてあげてって言われたことがあって、だから本当に破ったりすると思ったけど、先生のいうとおりに渡すと本好きに変わってきました。
- 保育園と幼稚園で破っても大事にしてねと、怒られはしなかったの、保育園の先生からも本をさわらせてあげるだけでいいよって言われて私も安心しましたし、未就学児のお母さんにはそんな相談を保育園にされてる方もいると思うんですよ。
- ブックスタートでもらう本が、うちは破ったりするからボロボロなのがあるんですよ。それでも、これでよかったんだと思えるから、ブックスタートって本当に大事と思うんですよ。本という存在をわからせてあげるために、最初にもらう本で遊んだりするから、そういうところで本好きに繋がって行くと思います。
- (八木委員)　　学校で図書館の使い方についての授業をやっていましたけど、今はないですかね。
- (谷口委員)　　あります。
- (都甲教育長)　　図書室カードの使い方などと併せて教えられてます。
- (谷口委員)　　絵本の袋を保護者の方が作って、大きい本が入るブックバッグを持って入学式で言われたので、それは持ってますね。
- (佐藤委員)　　不登校の子も本を読んでも、ハリー・ポッターなんかでもひどい目にあうじゃないですか。だから現実の世界でもひどい目にあうこともあるけど、仲間と頑張っていくそれを追体験することによって、現

(都甲教育長)	<p>実でも、頑張ろうって思えるのがすごく大きいという話も聞きました。だから特に小学生はそういう冒険物がいいそうです。日常では味わえないひどい目にあう、でも最後は成功体験ができるものだそうです。</p> <p>谷口委員がおっしゃるように、ほぼほぼそれに照らしてもいいですよ。親から始まって興味を持ってもらってですね。</p>
(谷口委員)	<p>それを先生から言ってもらえたら本当に最初の本のイメージです。</p> <p>私も破っても怒らないでねって言われたから怒らずに、テープで私が目の前で修繕するとだんだんなくなってくるから、それでもテープを貼られた本でも読んでましたね。</p>
(都甲教育長)	<p>この推進計画、今の皆さんみたいに熱のあるトークができると良いですね。よろしいでしょうか。このような形で行わせていただきます。</p>

## 1 2 その他

### (1) 4月行事予定について

#### ① 通学路の危険箇所点検

- ア 日 時 令和8年4月24日(金)  
午後1時30分から午後2時40分
- イ 集合場所 日南市役所本庁舎 正面玄関前

#### ② 令和8年度第1回日南市教育委員会定例会議

- ア 日 時 令和8年4月24日(金)  
午後3時00分から
- イ 場 所 市役所別館1階会議室2

### (2) その他

## 1 3 閉会